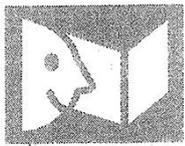


# 本よびあつてー

書・榊 莫山



本を読む

本の値段は  
税抜きです

最後に著者は亡き母の思い出をさりげなく紹介する。返しきれなかった誰かへの恩は、こうして次のいのちへと与えられるのだろう。

ただ一つの、理想の物語しか知らないような人生は、とても脆弱なものだ。首尾よく、人生のかじ取りが当初の

『奇跡がくれた宝物』(小沢浩編著、クリエイツかもがわ)は、長年、新生児医療や障害児の療育の第一線で活躍してきた小児科医である著者が、いのちの大切さについて母校の

の冒頭では、そのレポートがいくつか紹介されている。それに続いて講義内容が収録される。講義では臨床の場で出会った数多くの障害児やその家族、そして周囲の人々が織りなす物語が次々に紹介される。どれもまっすぐ心に

な物語を、差別心を持たずに知っておくことだ。

講義録の後には、講義を受けた後の生徒、そして先生の感想文が収録されている。著者も述べるように、たくさん

の物語へといざなってくれる。

## ビタミンBOOK



小児科医

熊谷 晋一郎

### 心にまっすぐ届く命の物語

物語の通りに進んでいるうちはよいかもしれない。しかし、生きていけば高波にさらわれ、浅瀬に座礁することもあるだろう。そんなときに必要なのは、どの場所からであっても、新たな航路へと再び人生を導いてくれる多様

天城中学校(静岡県伊豆市)の生徒たちに向けて行った講義である。講義の前、著者は生徒たちに、自分が生まれたときのことについて家族へのインタビューを行い、レポートにまとめてくるようにという宿題を出している。本書

届くものはかりだ。著者の文章が持つ魅力は、実に多様な他者の物語を、過剰な予断や解釈なしに、相手の懐の中から正確に跡付ける所だといえるだろう。飾り気のない透明感のある文章が、読者である私たちを、最短コースで彼ら